目　次

まえがき（松岡和美・内堀朝子）　iii

第 1 章 イントロダクション ..... 松岡　和美　1

［基礎編］　2

［最前線編］手話言語学の発展：音韻研究を例として　14

第 2 章 類型論 ..... 相良　啓子　27

［基礎編］　28

［最前線編］数詞の類型論　37

第 3 章 プロソディ ..... 下谷　奈津子・前川　和美　53

［基礎編］　54

［最前線編］日本手話のうなずきとその習得 ― 母語話者と学習者の比較　63

第 4 章 複合語 ..... 浅田　裕子　81

［基礎編］　82

［最前線編］動詞由来複合語の統辞分析 ― 日本語と日本手話の観察から　93

第 5 章 文末指さし ..... 内堀　朝子・今西　祐介・上田　由紀子　113

［基礎編］　114

［最前線編］文法的一致を示すものとしての文末指さし　124

BOOK SAMPLE ©Kurosio Publishers

第 6 章 省　略 ..... 坂本　祐太 145

［基礎編］ 146

［最前線編］空項の理論的分析：動詞残余型動詞句省略か，項省略か，空代名詞か？ 153

第 7 章 焦　点 ..... 平山　仁美 169

［基礎編］ 170

［最前線編］手話言語の焦点の意味論・語用論的分析 180

第 8 章 メタファー ..... 高嶋　由布子・冨田　望 197

［基礎編］ 198

［最前線編］手話のメタファー分析の試み 206

第 9 章 手話の発生 ..... 矢野　羽衣子 227

［基礎編］ 228

［最前線編］宮窪手話の言語学的特徴 237

第10章 マウスアクション ..... 岡田　智裕 249

［基礎編］ 250

［最前線編］マウス・アクションの使用実態の分析 260

索　引 279

執筆者一覧 284

BOOK SAMPLE ©Kurosio Publishers

第 1 章

イントロダクション

松岡　和美

言語学は主に音声言語を対象とした研究により発展した分野であった。しかし手話言語学の隆盛により，言語に「音声」が必須と考える必要はないことが明らかになりつつある。【基礎編】では，手話言語学という分野が確立した流れ，現在の研究対象と手法の拡がり，研究の社会的影響について簡単にまとめ，手話言語学分野で頻繁に言及される言語現象について基本的な解説を行う。【最前線編】「手話言語学の発展：音韻研究を例として」では，韻律モデルを提唱したブレンターリの研究成果を中心に，手話音韻論における「音節」に関する議論と図像性の高い手話表現の分析を取り上げる。

BOOK SAMPLE ©Kurosio Publishers

第 2 章

類型論

相良　啓子

類型論は，「言語の全体像やその構成部分の分類を，それらが共有する形式的特徴に基づいておこなうこと」（Whaley 1997: 7）と定義される。この定義には，通言語的な比較を行い，言語の形式的特徴を分類する，という重要な命題が含まれている。手話言語の類型論研究の目標は，個々の手話言語に見られる差異を体系的に比較し，言語間の差異のパターンを解明し，すべての言語が普遍的に持つ特徴を明らかにすることである（Palfreyman, Sagara and Zeshan 2015）。【基礎編】では，類型論研究のこれまでの研究背景と，手話言語を対象とする類型論研究の方法論について述べ，音声言語と同じ手法では限界があることを指摘する。【最前線編】では，世界の手話の数詞に着目し，数詞のしくみについて具体的なデータを示しながら類型論的に明らかにされた特徴を示す。

BOOK SAMPLE ©Kurosio Publishers

第 3 章

プロソディ

下谷　奈津子・前川　和美

「プロソディ（韻律）」とは，発話時に見られるイントネーション・リズム・プロミネンス・ポーズなどのことで，分節音を超えた，より広い範囲に広がる超分節音的特徴を備えている。この現象が手話言語にも存在することは，主に海外のプロソディ研究から明らかになっており，本章では，視覚言語の特性を捉えた手話の韻律構造について概観する。【基礎編】では海外の先行研究から，手話言語におけるプロソディの構成要素や韻律階層について紹介する。【最前線編】では，韻律要素のうち「うなずき」を取り上げ，日本手話母語話者と成人の手話学習者のうなずきの表出を比較分析しながら，日本手話のうなずきの機能や手指表現との関係について論じる。

BOOK SAMPLE ©Kurosio Publishers

第 4 章

複合語

浅田　裕子

本章では，複合語を取りあげる。音声言語の複合語研究は記述的，類型的，理論的に非常に豊富であるが，手話言語の複合語研究の歴史はまだ浅く，理論的分析も少ない。【基礎編】では，手話言語特有の音韻に着目しながら，手話言語の複合語が人間言語の基本的特性，そして音声言語の複合語と類似の諸特性をもつことを示す。【最前線編】では，日本手話の二つのタイプの動詞由来複合語，並列(動詞＋動詞)・限定(修飾詞＋動詞)の表出の同時性に関して筆者が行った調査結果を紹介し，二つのタイプの複合語の音韻特性の違いを捉える統辞分析を提示する。この分析をもって，日本語の動詞由来複合語の二つのタイプ，並列・限定の音韻特性も説明できることが示される。

BOOK SAMPLE ©Kurosio Publishers

第 5 章

文末指さし

内堀　朝子・今西　祐介・上田　由紀子

本章では，日本手話における「文末指さし」の基本的性質を記述し，生成文法におけるミニマリスト・プログラム(Chomsky 1995以降)の枠組みのもとで分析を試みる。【基礎編】では，文末指さしが主語および話題を示せることについて，確認する。【最前線編】では，文末指さしが示す主語名詞句に特定性効果が見られない事実に基づき，文末指さしを(接語)代名詞とみなす分析は妥当でないことを明らかにする。さらに，Miyagawa (2017)の文法的一致に関する仮説に基本的に従って，文末指さしを，自然言語に共通する文法的一致素性がT主要部にある場合には主語一致，C主要部にある場合には話題一致を，形態的に具現化したものと分析する可能性を議論する。

BOOK SAMPLE ©Kurosio Publishers

第 6 章

省　略

坂本　祐太

本章では，日本手話における省略現象に関して考察を行う。まず【基礎編】では日本語の空項に関する先行研究の事例を紹介し，スロッピー解釈の可能性が省略分析と空代名詞分析を区別するテストとして利用されていることを提示した上で，同様の議論が日本手話にも当てはまることを示す。次に【最前線編】では，主に Sakamoto and Matsuoka (2016)の研究内容を取り上げ，日本手話の空項は省略分析の中でも項省略ではなく動詞残余型動詞句省略で分析することが妥当であることを示す。最後に，空項に関する空代名詞分析の可能性に立ち返り，今後の研究に残された課題を示すこととする。

BOOK SAMPLE ©Kurosio Publishers

第 7 章

焦　点

平山　仁美

本章では，手話における焦点について扱う。焦点は，音声言語の意味論・語用論における分析で重要な役割を果たしてきた概念である。【基礎編】では焦点はどういったものでなぜ必要な概念なのか，音声言語で観察されてきた焦点が手話ではどのような形で具現化するのかを説明する。【最前線編】では，欧米の手話の焦点に関する最新の研究のうち，語用論(情報構造)と形式意味論(焦点と代替集合)という分野の研究手法と結果を紹介する。これらの研究は，一見類像性が高いように思われる手話における重複や空間の使用が，情報構造や素性という自然言語一般に見られる抽象的な要素と関係していることを示している。

BOOK SAMPLE ©Kurosio Publishers

第 8 章

メタファー

高嶋　由布子・富田　望

本章では，手話の認知言語学的な観点からの研究を，特に類像性とメタファーにおける写像と，認知言語学の主要な方法論である用法基盤モデルについて取り上げる。【基礎編】では，メタファーの分析と用法基盤モデルについて主要概念を解説し，写像という観点とそれに基づく意味の広がりがネットワークとなっていることを示す。【最前線編】では，筆者らの近年の研究を二つ紹介し，日本手話では，メタファーを基盤にどのようなネットワークが形成されているのか示す。これらの研究で得られた成果に基づき，視覚言語において，語の用法が拡張するときに，形式と意味がどのような特徴を示すのか論じる。

BOOK SAMPLE ©Kurosio Publishers

第 9 章

手話の発生

矢野　羽衣子

本章では，手話における言語進化プロセスの各段階を取り上げる。言語は人と人をつなげ，社会で生きていくために必要なものであり，ろう者が使用する手話が言語であることを，手話の進化を通して明らかにする。【基礎編】では，ろうコミュニティが使用する手話と地域共有手話が，ジェスチャー（身ぶり）からホームサインを経て言語に進化するプロセスを説明し，手話はいつ誕生し，どのように言語に進化したか考察する。【最前線編】では，ろうコミュニティとは別に，同じ地域のろう者と聴者が使う地域共有手話である愛媛県大島の宮窪手話の特徴を説明する。

BOOK SAMPLE ©Kurosio Publishers

第10章

マウス・アクション

岡田　智裕

本章では，非手指要素のうちの一つ「口の動き」を取り上げる。口の動きは多種多様である。口の動き(マウス・アクション)にはマウスジェスチャーとマウジングの二種類に分類されており，さらにマウスジェスチャーには様々なカテゴリーが提唱されている。【基礎編】では，マウス・アクションの基本的な分類について解説する。【最前線編】では，各国のマウス・アクションのそれぞれの研究と手法について紹介するとともに，様々な視点で分析する。分析結果から，見いだされたパターンにおける社会的要因などの関わりについて考える。

BOOK SAMPLE ©Kurosio Publishers